

北海道産材を使用した木製樽で
お酒の可能性を広げ、希少性を高める
株式会社北海道バレルが設立

株式会社カンディハウスと株式会社ノーザンフォレストによる
高精度な技術力と集材力を掛け合わせた全く新しい木製樽が誕生



北海道産木材の集材力と家具製造の技術力を活かした、北海道初の樽メーカー「株式会社北海道バレル」（本社：北海道旭川市、代表取締役会長：藤田哲也、代表取締役社長：竹次修）が、2025年3月10日に設立されました。本事業は、2023年に始動した「旭川樽プロジェクト」を前身とし、木材の産地や背景を明確にした、オリジナリティの際立つ物語を持った樽の製造を実現することで、お酒の可能性を広げ、希少性を高め、世界中の造り手と飲み手に唯一無二の価値をお届けすることを目的としています。

設立の背景

日本の家具産業をリードしてきたカンディハウスと、北海道の森林資源を高精度に集材し、高付加価値化を実現してきたノーザンフォレスト。この2社が、「北海道産材による洋酒樽の製造を通じて、北海道の森と旭川の家具産業の持続可能性に貢献したい」という想いを共有し、2023年、「旭川樽プロジェクト」が発足。産学官の多様なメンバーが呼応し、着実な進展を重ねたこのプロジェクトは、2025年に事業化フェーズへと移行しました。カンディハウスの精密な木工技術と、ノーザンフォレストの高い集材力を掛け合わせ、北海道産材を使用した美しい洋酒樽を企画・製造・販売する企業、株式会社北海道バレルが2025年3月10日に設立されました。

HOKKAIDO BARRELとは

世界中の造り手と飲み手に、
唯一無二の価値を。

北海道バレルは、北海道産木材に関する深い知見と独自のネットワークによって実現する、他に類を見ない“精度の高い集材力”と、旭川家具の製造で培われた精密加工のノウハウを応用した“精度の高い技術力”を掛け合わせて生まれた樽メーカーです。固定概念にとらわれず、多様な樹種を用いて樽の選択肢を広げるとともに、木材の産地や背景を明確にした、オリジナリティの際立つ物語を持った樽の製造を実現することで、お酒の可能性を広げ、希少性を高め、世界中の造り手と飲み手に唯一無二の価値をお届けします。



集材・生産体制

集材：ノーザンフォレストによるトレーサビリティを保った多様な北海道産木材の集材と材量確保を確立

生産：カンディハウスによる家具製造技術（さね加工など）を活かした独自の生産体制を確立

製品

特注樽：木材の樹種や産地などを指定した特注樽の製造

既製樽：12種類以上の北海道産木材を使用した既製樽の製造

事業プラン

初期は2.5Lおよび30Lの樽製造を行い、順次200L以上の樽生産に取り組む

将来的に、旭川地域での生産協力工場と共に樽生産を「地域産業」として発展させる

生産・販売計画

北海道内には、約70のワイナリーと、18の蒸留所があり（2025年7月現在・当社調べ）、今後も増加傾向にあります。また、世界的にも、高級アルコール飲料、特にストーリーを持った希少性の高い高級ウイスキーの需要は高まり続けています。そのような背景を受け、北海道バレルは、北海道内を中心に、世界中で希少性の高いこだわりの高級アルコール飲料を製造する造り手の皆さまのお力になるための、木製樽を企画・製造・販売して参ります。

既製樽スペック

12材種：ミズナラ、タモ、ニレ、セン、カバ、サクラ、ハン、キハダ、イタヤ、シナ、クルミ、アカシア

※ミズナラ・サクラ以外は世界初（当社調べ）



HB-2.5 (2.5L樽) Size: 276×171

HB-30 (30L樽) Size: 470×397

会社概要

社名：株式会社北海道バレル (HOKKAIDO BARREL Co., Ltd.)

設立：2025年3月10日

所在地：[本社] 北海道旭川市永山北3条6丁目1-78

[札幌オフィス] 北海道札幌市中央区北8条西13丁目28-21 (エア・ウォーターの森 3F)

電話番号：070-2157-8800

資本金：500万円

代表取締役会長：藤田 哲也

代表取締役社長：竹次 修

非常勤取締役・クリエイティブディレクター：村田 一樹

非常勤取締役：染谷 哲義、吉田 拓也

監査役：笠松 伸一

本件に関するお問合せ先

株式会社北海道バレル

北海道旭川市永山北3条6丁目1-78

電話番号：070-2157-8800

メールアドレス：contact@hokkaidobarrel.co.jp

ウェブサイトでもプレスリリースを配信しています

hokkaidobarrel.co.jp

